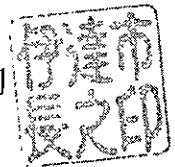


20伊建土第1379号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

伊達市長 仁志田 昇司



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼ありました件については、
別紙のとおり回答します。

担当者：伊達市建設部土木課庶務係 金子伸明

TEL 024-577-3135

FAX 024-577-7202

- ・ 都市で発生する社会問題を地方が担い、地方が抱える課題を都市が引き受けるというつながり、都市機能の持つ優位性と地方が育んできた自然資源の相互補完等、これらの役割分担は「道」によるつながりにより解決できると思われる。表面上の議論に惑わされる世論に迎合することなく、国家的見地から道路政策を進めて欲しい。
- ・ 地方（特に東北地方）の道路整備はまだまだ遅れており、道路事業の評価手法については、採算性や効率性、合理性にとられず、災害時の迂回による損失や経済損失の回避、通行止めによる孤立集落の発生阻止、救急医療施設への搬送時間短縮、冬季の走行速度低下の抑制等、地方の実情を十分に取り入れて欲しい。
- ・ 生活道路の安心・安全な通行を確保するためには幹線道路の整備が必要不可欠であり、地方においては、それが地域活性化や産業振興の命綱になっている現実を都市部の人たちに理解して欲しい。また、そのような政策を講じる必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

福島県伊達市

○現状 ・伊達市を經由して相馬市（重要港湾相馬港）と福島市を結ぶ国道 115 号は、中山間地域において急峻、線形不良及び狭隘区間が多く広域交流の大きな障害となっている。 ・国道 349 号は、水戸市から角田市まで阿武隈山地を縦断する地域にとって重要な幹線であるが、伊達市内において全国的にも稀な一方通行区間があり、円滑な交通に支障をきたしている。 ・近隣市と比較して、市道改良率・舗装率が低位の状況にあり、合併後間もないため、旧町間の道路整備状況には地域格差がある。 ・福島県の平成 21 年度当初予算については、公共事業の 20% 削減、維持補修費の 10% 削減等が見込まれ、国・県道整備等の停滞が懸念される。	○課題 ・阿武隈東道路は着工されたが、霊山道路の早期着工とその他の区間も含めた全線の早期完成 ・財源確保と県による整備促進 ・財源の確保 ・財源の確保
--	--

- ・国・県道の渋滞箇所の解消など整備促進について関係機関に働きかけを強化し、近隣主要都市との交流や連携強化に努め、広域圏の産業、医療、文化の向上を目指す。
- ・市民の生活環境の向上や地域内外との交流、地域の均衡ある発展を図るための幹線市道の整備と、市民生活に密接な生活道路の計画的な整備を図る

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福島県伊達市

○重点事項	○ 代表事例	期待する効果や評価等	○ その他
・ 地域活力の向上	・ 国道 115 号（東北中央自動車道）福島市～伊達市～相馬市間の整備促進	期待する効果や評価等 ○地域資源(相馬港)を活かした産業の活性化 重要港湾相馬港を利用する福島県北地方の物流 ○新たな観光スタイルの創出 伊達市、福島市、相馬市、二本松市による観光圏の構築 ○地域間の交流・連携と地域への人誘致・移動の促進 相馬地方で不足する労働力を伊達地方から供給 ○いのちと暮らしを支える交通環境の形成 救急医療、緊急手術時の高度医療機関への患者の搬送	・